

特集1

女性起業家

成功への道筋

日本では、女性起業家はまだまだ少数だという事実がある。家庭や子育てとの両立、資金……。さらに、男性に比べてビジネス経験の差も否めない。女性の起業にはさまざまな障害がある。起業の課題などについて専門家に話を聞くとともに、夢を形にする強い意志と行動力で起業した女性経営者たちの取り組みを紹介する。

世界各国と比較して、起業活動や起業意欲が高いとはいえない日本。そうした状況の中でも、女性起業家は着実に増えており、その活躍にスポットが当たるようになってきた。彼女たちはどんなきっかけで会社を起こし、独自のビジネスモデルを構築していったのか。またそれを後押しした環境の変化とは。起業家活動を支援している日本ベンチャー学会事務局長の田村真理子さんに話を聞いた。

インターネットの普及は起業に弾みをつけた

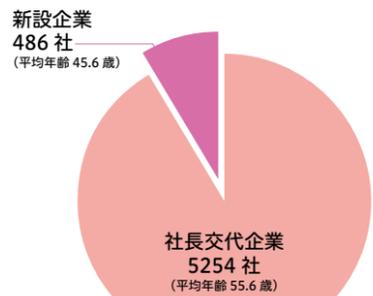
——この20年の起業をめぐる状況の変化をどう分析されますか。
田村 日本では、1970年代（昭和45〜54年）に起こった第1次ベンチャーブームから現在まで、起業の波が4回訪れています。20年前といえば第3次ブームのころ。IT技術が飛躍的に進歩し、インターネットという新しいツールが登場したことで、情報の入手や発信が容易になって、ネットベンチャーが続々と誕生しました。そのころから、活躍する女性起業家の姿が目につくようになりました。例えば、自分の子どもがアトピー性皮膚炎で、毎日添加物の入っていない料理をつくっていたとしま

女性の“生活者としての視点”を生かせば流通革命は起こせる

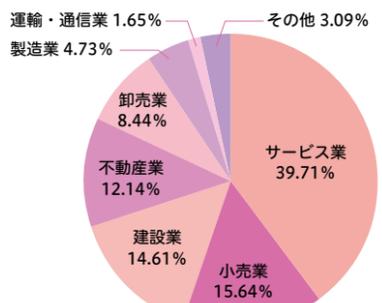


日本ベンチャー学会 事務局長
田村 真理子

平成 27 年以降の新任女性社長企業は 486 社



新任女性社長企業は「サービス業」が最多



平成 27 年以降に女性社長が就任した新設企業は 486 社。平均年齢は 45.6 歳で、年代別構成比を見ると 30 代が最多。また、サービス業が最も多く、内訳は経営コンサルタント、理美容、福祉や医療などの業種が目立つ

出典：帝国データバンク「新任女性社長企業の実態調査」を基に作成

す。それをインターネットで発信したら思わぬ反響があり、自分の行動に価値があることが分かった。「こんなにアトピーの子を持つママがいて、困っているなら」とメニューをつくってくれる会社を探したが、見つからないので事業化を思い立つ、そういう女性が2000（平成12）年を過ぎたころから増えてきました。

——インターネット以外に女性の起業を促した要因はありますか。

田村 そもそも女性が社会で働き続けるようになった背景には、昭和61年の男女雇用機会均等法の施行が大きいといえます。それにより女性が働きやすい環境が徐々に整い、社会で経験を積む女性が増えました。その中には結婚や出産を経て仕事が続けたり、起業したりする人が現れ、それがロールモデルとなりました。

さらに、超少子高齢化時代が到来し、社会全体に女性を戦力として活用する機運が生まれたことで、活躍の場が与えられ、女性の個々の能力が引き出されスキルアップされるようになりました。こうした外的・内的要因が相まった結果といえるでしょう。

——起業を目指す女性と男性に違いはありますか。

田村 あえて挙げるなら、女性の